遠藤れい子の新潟県議会ウォッチ　No.357　　2026年11月22日号　《部内資料》



原発ゼロに

遠藤れい子ひまわりレポート

〇遠藤れい子事務所　　〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443

ホームページ

自民党の医療政策は病院も患者も苦しめている。いのちを守る最前線の

県央基幹病院の皆さんと懇談して

11月13日、地域医療を守る新潟県実行委員会の一員として遠藤れい子前県議は県央基幹病院を訪問しました。

岩渕洋一病院長は俯瞰的な立場でお話しされ、医療現場はどこも頑張っていることがビシビシ伝わってきます。「ベッド稼働率は100%を超える日もある。特に月曜日がそう。“断らない救急”で100%の稼働になっている」…どれほど忙しい現場になっているのでしょう。入院ベッドを確保するための転院、退院手続きや指導　患者さんにも負担がかかっているのではないでしょうか。



11/13　県央基幹病院で病院長と懇談

「連携病院に外科系医師がいればよりスムーズな転院ができる。地域を一つの病院のようにするには組織の枠を超えた医師・看護師などが行き来できるシステムが必要です」と。

本当にその通りだと思います。救急入院を受け入れる基幹病院の医師・看護師を増やし、余裕ある診療体制で派遣ができるシステムが求められます。医師　看護師を増やさなければなりませんね。



屋上のヘリポートを案内してくださる岩渕病院長

民意を削る比例定数削減反対！
企業・団体献金禁止し、政党助成金廃止こそ！

遠藤れい子の笑顔でファイト

入院手術を経験して思ったこと、固くなった体を体操でほぐす

病院を退職して10年、入院手術を経験しました。

現場は患者目線と効率化で様々な努力をしています。電子カルテはデータの自動取り込みなど進化。入院セットの提供で最小の準備で入院できる。患者の欲しいところに介入して自立性を促す看護。清潔な環境保持でストレス少なく退院となり感謝です。

入院費を振り込みましたが、無保険の犬の手術代より負担はずっと少なくてすみ、健康保険と高額療養費制度に感謝しました。

病院経営をみると、物価高騰に診療報酬が伴わず、病院経営は大変な状況になっています。電子カルテは5年から数年で更新が必要で数十億円もかかります。医療機器も更新が必要で、維持・発展のために多額の資金が必要です。

お金がかかるから、人口減少だから、高齢化だからと医療縮小の方向だけに舵を切るのは問題です。

さて、手術後3週間、「痛いの痛いの飛んでけ体操」に参加しました。手術後の回復はまさに時薬です。身体が固くなっていることを実感しました。高齢者のスクワットはゆっくりと、膝をつま先より出さないように、手を前にバランスをとりながら行うと良いそうです。

